

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン

論達を實踐し、をやの理を戴こう

本年の實踐項目

おさづけの取り次ぎ

陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ

一万人のおぢばがえり

仕上げの年に相応しい

心の成人を

年頭会議における大教会長様お話し

論達を承け、「実動の年」と意義付けてつとめた昨年は、大教会では、創立百十周年に向かう二年目ということで、それに向けての実動という思いで動きました。

三つの実践項目を掲げてつとめた結果は、「百万軒にをいがけ」は、百二十万軒余り、数の上から言えば、一昨年よりも十万少ないということになります。心一つに合わせてつとめられ、よかったですと思います。

「陽気ぐらし講座」は、一四二会場で開催され、総参加数は四、八二五人、その内、未信者が二、六七一人（五五、三％）でした。

普通なら、半分の教会で開催するのも難しいのに、全教会で開催され、参加者の過半数が未信者だったということは、とても凄いことだと思えます。

教会らしい教会を目指して

さて、真柱様は、本年も年頭のご挨拶で、実動ということについて話されました。

これは、言われたからする、言われないからしないということではなく、教会というものが、教えを実行する中から生まれたのだから、教会そのものは、実動してこそ教会だと言える。しかし、どうも実動のない教会があるようなので、教会らしい教会を目指してしっかり実動してほしいというようなお話だったと思います。

笠岡においては、今年が創立百十周年の年です。三年千日仕切って歩んだ、その仕上げの年ということで一年歩むわけです。それに相応しい実動の年にしたいと思えます。

その実動の内容については、「決起の集い」や直轄教会の大祭参拝で申しましたので、今日は、それに関わって、少し気になることをお話しして新年の挨拶にしたいと思います。

教会に勢いがなくなった

毎月、各教会から提出される祭典報告書の中に「教会長所感」という欄がありますが、そこに教会長の思いを書かれる方がだんだんと増えてきました。その中で、百万軒にをいがけについての喜びの声を書かれる方が、特に増えてきました。百万軒によってよふぼくが動くようになってくれたとか、切れていたよふぼくが教会に通うようになったとか、また、実際におつとめ奉仕者が増えてきたところもあり、喜んでおります。

他にも、悩みや質問等を書かれる方がおられますが、その中に疑問点を書かれた方がおられますので、この場で、お答えします。

まず、「祭典報告書を読んだ後、どうしているのか」ということですが、これは、一ヶ月分の祭典報告書をバラし、教会毎にファイルに綴じ直して、全部保管しています。

私の手許にあるのは、昭和六十年からの分で、十五年間分を保管しています。

次に、「祭典報告書は、役に立っているのか」ということについては、私にとっては、十分、役に立っています。

教会毎に綴り直した報告書を、時折、一年間通して、ザッと目を通したり、十五年間の動きを確認したりします。

良い悪いを含めて、教会の動きが分かります。祭典役割や参拝者数だけしか書いてありませんが、そこから、教会長のつらさや喜びなどを読み取れることもできます。

しかし、私は、「なんだ、こんなことか」とバカにして読んだことは一回もありません。

たった一枚の紙切れですが、書いてある内容によつては、「頑張っているなあ」、「辛い思いをしているなあ」とか感じたり、上級の会長さんと相談したり、直接本人とお話することもあります。

「報告書を書くのが辛い」と書かれる方もおられますが、それは、書くこと自体が辛いのではなく、何か辛いことがあるのだと思います。

それでは、それぞれの教会がなぜ辛いのか、その原因は何で、どうすればよいのかなどと、十五年間の動きをみて、いろいろと思索してみます。

毎年の報告書を読んでいると、名前のなくなつた人が分かります。つまり、出直もあろうし、お道から離れた方もあります。

新しい名前が増えれば、さほど辛い思いをしなくても済むでしょうが、だんだん名前が減るだけで増えてこない。教会の勢いがだんだんなくなつ

ている。これが、報告書を書く上で辛い思いをする一番の原因ではないか。そういうことも、読んでいくうちに感じます。

教会に動きを創り出そう

教会に勢いがなくなつたのは、教会に動きがなく、教会の中だけの動きになつているのが原因だと思います。

信者の丹精も大切ですが、それだけでは、少なくともつてしまいます。少なくとも、信者子弟をもつと丹精すれば、そういうことにはならないでしょうが。

それでは、それを解決していくためにはということ、「教会が動きを出していくことが大切」という結論に達し、動きを創っていくことが大切という

で、百万軒にをいがけの発想のもとになりました。それには、教会長一人だけではなく、教会に繋がる一人ひとりが動くことが大切です。

昔の教会は、皆、そうでした。教会に繋がるよふぼくが、皆、にをいがけ・おたすけをしました。

それが、だんだん、教会長だけが、にをいがけせんらん・おたすけせんらんというふうになつてしまつているところに、大きな原因があると思

います。ですから、教会長だけが百万軒するのではなく、教会に繋がるよふぼく・信者に少しでも動いてもらえるように丹精してほしいのです。

自分が動くだけなら簡単ですが、教会が本当に伸びる動きには繋がりません。

まだ、教会長だけが動いている、限られたわずかのよふぼくだけが動いているという教会もあるでしょう。動かないよふぼくに動いてもらう苦労をするのも、これは、教会長のつとめだということも心において、そういう苦労をすることも、今年一年は大切でしょう。

それがもつたことによって、昨年まで動いてきたわけ

一回でも多くおさづけの取り次ぎを

で、今年の動きにも繋がっているということも心において、実動を目指して動いていただきたい。

そして、よふぼくの使命はと言えば、おさづけの取り次ぎというのが、先ず第一です。

これも、いつべんに何もかもというとなかなか動きにくいので、この三年間かけてじっくりやっ

ていこうということで、だんだん実践項目が増えてきたわけですが、昨年末に実践項目を発表し、項目別の実績を報告するようにお願いしたところ、数名の方から、「数を報告せよと言うが、数に捕らわれておさづけを取り次ぐのは、おさづけの理を軽しめないか」と質問されました。

結論から申すと、数の大小に関わらず、おさづけの理が軽くなることは決してありません。おさづけに関して数の上でお教えいただいでい

るのは、一人の身上者に対して一日に取り次げるおさづけの回数が六回であることだけです。

それ以外には、一日に何回以上取り次いだら理が軽くなるなどは仰つていません。

むしろ、人をたすける効能の理としてお許しいただいた理ですから、勿体ないというて懐にしまいい込んだりしないように、しっかりと、一人でも多くの身上者にお取り次ぎするようにと、仮席では、わざわざ仰つています。

「たくさん取り次げば理が軽くなるから取り次ぐな」ではなく、「一人でも多くの方にお取り次ぎしてください」と仰るおさづけです。

仮席の中で、重い軽いという表現をしておられるところは、「理を重く扱ふ」というような表現で、つまり、扱う人の心次第だということです。

ということは、「数に捕らわれて、たくさんおさづけを取り次ぐと、理が軽くならないか」という言葉の意味は、「数を取り次いだら心が軽くなつてしまわないか」ということで、それは、逆に言えば、おさづけの理を重く扱つていない証拠ではないのかと言わざるを得ません。

一人でも多くの方にお取り次ぎするようにとのおさづけの理ですから、しっかりとお取り次ぎしていただきたい。

そして、おさづけの理を重く重く感じて、この重いおさづけの理を、むしろ、少しでも多くと思つてお取り次ぎすれば、取り次げば取り次ぐほど、理を重く扱ふことになるとは言えないでしょうか。

ついでに申すと、本当に数にこだわらないのなら、一回でも一万回でも百万回でも関係なく、少ない方が云々ということ自体が、既に数にこだわっている姿ではないでしょうか。

数にこだわらず、実動の心を培おう

そして、「数を報告する」ということは、数が多ければよい、少なければ悪いということではなく、ただ、回数を報告するだけのことであつて、「少ないから、ダメじゃないか」という攻め道具にするために、数を報告していただくではありません。

むしろ、それぞれの教会が、一つの目安として、「よし、来月はもっと頑張らせてもらおう」というような、一つの励みになればありがたいと思つて書いていただきたいのです。

一番大切なのは、そのための心を遣うということですから、おさづけを取り次ぐための心を遣つていただきたいのです。

いかなる身上であろうとも、「こんな軽い身上におさづけをお取り次ぎしたら申し訳ない」という心が申し訳ないのであつて、とにかく、おさづけをお取り次ぎしようという心を遣つていただきたい。

にをいがけに出て、おさづけのお取り次ぎを申し出ても、なかなか受けてはもらえませんが、申し出ること自体がありがたい、その心を遣うことが一番大切だということです。

おさづけを取り次げなかつたら、結果的には、数はゼロです。しかし、数に出なくても、その心を遣うこと自体が旬の御用だと私は思います。

ですから、よふぼく一人ひとりに、皆さんの方から声をかけて、その心を遣つてもらえるようにご丹精いただきたい。

百万軒をいがけも、他の実践項目も同様です。少ないと思えば頑張ればよいと思います。数が出たから良いとか悪いとかいうことではなく、それが、それぞれの励みになれば、私はないがたいと思います。

そのための数だということを理解していただいて、これは、正直に出していただきたい。

聞くところによると、百万軒の上について、「やっではないが、数だけ出しておけばよい」というような方もあるようですが、はっきり言つて、それでは意味がありません。

そんなことのために数を出していただいているのでも、百万軒をやっているわけでもないのです、少なくとも多くも関係ない、本當につとめられた数だけを正直に出していただいて結構です。

それが、それぞれの教会の励みになれば一番よいのではないのでしょうか。

とにかく、今年一年、実動あるのみ、百十周年という大きな節目に相応しい一年にしたいと思ひますので、しっかりと心をつとめてつとめられますよう、お願ひを申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

(以上要約)

ちやんと育つように
しつかりと育つように
春季大祭講話 大教会長様

「育て」とは

◆今はどういうときか——「育て」を思う句

昨秋、天理教校が創設百周年を迎え、教校創設の意義が人材育成にあったことから、真柱様は、秋季大祭で、人材育成の大切さについて触れられました。

大教会では、本年、三つの実践項目を掲げて実動を期しているが、これも、自分だけが動くのではなく、それを通して、教会長・布教所長・よぶぼく・信者が、それぞれの子弟を育成すべくつとめることも大切だと思えます。

本年も、年頭からいろいろな事件が起こっております。昔なら、事件の加害者と被害者には何らかの関係がありました。最近、無差別に殺傷を行なう傾向がありますので、誰でも被害者になりうる、つまり、他人事ではありません。

また、親が子を、子が親を殺すというような事件も多発しております。

こうしたことから、今は、「育て」ということの大切さを考えなければならぬだと思えます。

◆育てば育つ。育てにや育たん。

そういうことで、今日は「育て」ということについて、お話しを進めます。

最近、放任主義という育て方があります。今年の成人式などに現われているように、言葉通りにほったらかしにする風潮があるようですが、親はちやんと育てているつもりでも育て方が間違っている、あるいは、育てているつもりだけになっているのではないのでしょうか。

おさしづに、

いづれへ尽すれど、一つの道に集める。人間心の理は世界の一つの理である。危うき道を見にやならん、通らにやならん、聞かさにやならん。元々一つの理に帰る。早く一つの理を聞き分け、見分け。天然自然の一つの理を見れば、行末一つの道を見る。どうやこうやと言わん。尋ねるから一つの理を聞かそう。育てるで育つ、育てにや育たん。肥えを置けば肥えが効く。古き新しきは言わん。真実あれば一つの理がある。

(明21・9・24)

これからは多くの中、人々という理を以て集まる。……いかなるも皆、育てば育つ、育てにや育たん。……この道は聞けば聞く程難しいと言う。難しいやない。心の理が難しいのや。……育てるといふは、心だけの理を以て育てる。

(明24・3・23)

というお言葉があります。

「育てば育つ。育てにや育たん。」、育つ理は育てるところにあると仰っています。

放任といつても、ほったらかしにするのではなく、その中に「育て」がなければ、本当には育ちません。

「育てにや育たん」ということ、これをしつかり思案しましょう。

◆ひながたにみる「育て」

育て方の足りない姿は、お道の中にも現れているようですが、教祖のひながたの中に「育て」の姿を求めてみると、簡単に申せば、厳しさと温かさ優しさではなかるうかと思えます。

最初は、より来る人々を、温かさいっばい、親心いっばいに迎えられる。その中から、だんだんに道を求める人々がでてきたが、こういう人々には、温かさよりも、むしろ、大和事件などのように、厳しさをもって仕込まれた。そして、明治二十年を迎え、正に厳しく厳しく仕込まれたのです。教祖のひながたは、「人間をたすける」、「たすかる理を伝える」という上では、凄く厳しい道ではなかつたでしょうか。

それは、寄り来る人に厳しいだけではなく、御自らも厳しい道を求めて歩まれたひながたでもありました。

このひながたは、一人ひとりが道を通る上で、自分自身に対する厳しさであると同時に、人を育てる上での厳しさでもあると思えます。

ちゃんと育てるためには

◆育てる理がなければ育たない

代を重ねて、楽々の道・安易な道に流れやすくなってくると、だんだんと道の理が分からなくなり、たすけの理が現われてこなくなるのではないのでしょうか。

おさしづにも

上から下を育てにやららん。一日でも早く入れた者は、育てる理が無くば聞き流し、思い違いなら、育てにやららん。

(明31・10・26)

また

道に外れたる心で育てようと思うた処が育たん。

(明33・1・4)

というお言葉があります。

育てる者が、道に外れたような心であつては、いくら言葉でお道の真理を説いてみても、残念ながら、そこには育たない理しかありません。

ということとは、育てる気があるなら、しっかりとその気で育てなければならぬということですよ。

◆遠慮気兼あつては育たない

私たちが、育てる上において、どうしても自分に甘えがあつて厳しくなれず、自分が成人していないのに申し訳ないというような思いもあつて、なかなか厳しく言えないという部分もあるでしょ

うが、理ということに関しては、厳しい心で、しっかりと育てなくてはなりません。

おさしづに

遠慮気兼は要らん。すつきり要らん。……

遠慮気兼あつては真の兄弟と言えるか。

(明24・11・15)

これは、本席様に対するおさしづで、飯降伊蔵様は、本席という立場と人間飯降伊蔵という立場との中で葛藤もあつただろうが、「本席と言つても一人間だから……」というような遠慮があつてはならない。飯降伊蔵様より入信の古い先生方もおられただろうが、理に与る者としては、遠慮せずしっかりと理を取り次がなければならぬということではないでしょうか。

親は親神様・教祖だけ、我々は兄弟として生まれているので、真の兄弟として遠慮なく育てなければ、一体、誰に育てることができましようか。

特に教会長は、教会長の理を載いているということを考えてみれば、教会長という立場でのお話しは、どんな状況でも、遠慮気兼せずに取り次がなければなりません。

特に、教会長の身内に対しては、子供だから・嫁だから・主人だからと、つい、遠慮しては育ちません。

いんねんと感じるものがあれば、いんねんの自覚を促すように取り次いでいかなければ、その者をたすけられないと思います。

相手が聞く聞かないに関わらず、本当に大切に

と思えば、ちゃんと言つて聞かして通らさなければなりません。

◆放任では育たない

「自由」ということを履き違えてはなりません。「道を継ごうが継ぐまいが子供の自由だから、道を選ぶのは、子供に任せておいたらよい。継がないと言ふのなら、仕方ない。」これでは、育てではありません。

この道を通ることによって、たすかる、あるいは、世界人類が陽気ぐらしに立て替わるという思いが、本当にあるなら、子供に任せるというような育て方ではいけないと思います。「自由」という言葉に踊らされて、「わがまま」に育ててはいけません。

むしろ、「何が何でも、この道を通らなければならぬ」という確固たる信念で理を植え付けて、子供がこの道を通るように、しっかりと育ててやるということこそが親心ではないでしょうか。

子供の好き勝手に任せてやるというのが親心だと思つたら、それは違うということです。

もし、そうなら、何故、教祖はあれほどに御苦労くだされ、厳しくお仕込みくだされ、厳しく仕込んででもこの道に引き寄せられたのでしょうか。やはり、たすけてやりたい、その一条だったと思います。

ましてや、この道を通らなければたすからないからこそ、引き寄せられたということを考えてみ

れば、この道を通る者は、そのことをしっかりと子供に伝えて、子供が信仰に繋がるように、しっかりと育てなければなりません。

そして、育てる上で、一番大切な角目は、育てるという心です。育てる方に心がなければ育ちません。

「いずれ分かるだろう」とか「その内、神様が何か徴しるしを見せてくださるだろう」というようなことでは育ちません。

やはり、小さいときから、しっかりと育てる気で育てなければ育たないということも心におかなければなりません。

人を育てるといことは自らが育つこと

◆自らも育つ努力を

子供には分からないかもしれないし、厳しいかもしれませんが、育てる上では、こちらも人と言う以上は、自分自身に厳しくできるように成人の道を歩みつつ、育てなければなりません。

こちらが成人できているから育てる、成人できていないから育てられない、ではなく、まだまだ、お互いに成人が足りないのですから、先ず、育てるという気持ちをしつかりと持って、それに相応しい自分になれるように自分自身も育つ努力をすることが大切です。

◆理の取り次ぎは遠慮気兼ねなく

これは、理ということの思案で、この度の「おさづけの取り次ぎ」の上においても、おさづけの理をお取り次ぎするのですから、そのときに遠慮気兼ねがあつてはなりません。

ですから、しっかりと、お話しのお取り次ぎをし、理のお取り次ぎをしたらよいのです。

「私のおさづけは効かないかなあ」というような遠慮の心で、あるいは、「こんな話をしたら、この人はお道を離れてしまふかなあ」というように気兼ねしながらお話しを取り次いで、おさづけをお取り次ぎしてはならないということです。

なんとか、どうでもたすかかってもらいたいという、その思いでお話することは受け取ってもらえる理があるので、相手がどう受け取るかは別として、親神様・教祖が働いてくださるからこそお取り次ぎする理だという心で、しっかりとお取り次ぎすることが大切だと思えます。

◆理を重く扱おうという心が自らを育てる

よふぼくならば、理というものの大切さは、自分自身で培わなければ、どうしようもありません。

理は普遍のもので、理そのものが重くなったり軽くなったりすることはありませんが、扱う人の心一つによっては、おさづけの理も、重きに思えば重き理になるし、軽きに思えば軽き理にかなりません。

理によってたすけていただくのですから、その

理を重きに扱うという、その心を培うことが大切だと思えます。

それも、自分が育つことに繋がるでしょう。

「この程度なら」とか「こんなものなら」と思ったら、それまでです。それは、結局自分自身がそれに流されているのであつて、その理に相応しい成人をしていないのです。

「会長さんはこう仰るが、この程度にしておけばよからう」とか、「この程度で勘弁してもらおう」とか、そう思ったらそれだけの理です。

それでは、自分が育たない、育つ理が培われません。

◆人が育つように自らも育ちつつ、

育てるといことは、人を育てるとともに自分自身も育つことなので、育てる理で人々を育ててほしいと思えます。子供や孫や後に続く者をしつかりと育ててやつてほしいと思えます。

その育てる理によって、自分自身が育つということを中心に、お互いに育てられるような、また、「育て」に心を配りながら、今年一年、実践項目にも関わりたいと思えます。

今は、「育てる」ということが大切な時代であり、世の中であるということをしつかりと心に置いて、育てができ、自分が育つことができる一年になるように実践に歩みたいと思えます。

（以上要約）

心の通ひ路

Father & Mine's Essay

この旬に

福岩分教会長夫人 三 阪 由 紀

大教会創立百十周年仕上げの年で、あちこちより勇み立つ声が聞こえてくる今日この頃ですが、私自身を顧みて考えると甚だ恥ずかしい限りに限りてなりません。

三年千日の打ち出しがあった年に会長交代の話しになり、二年目の歩み出しと共に会長交代。後継者夫人から会長夫人の立場になり、その重みに苦しみ、悩み、投げ出したい一心の一年であったように思います。そんな中、いろいろな方のアドバイスを頂き、やっと前向きに考えられるようになります。今を通して頂いております。

百万軒にをいがけ、が打ち出された頃は、二〇枚のパンフレットがなかなか配れませんでした。今まではだんだんと歩けるようになってきました。今まではいくら子供に身上をお見せ頂いた時でも、歩くことはなかなか出来ませんでした。それが、数にこだわっても配らせてもらおう、との打ち出しを頂いたおかげで、「少しでも歩かせて頂こう」という気にならせて頂けたように思います。

そして昨年からは月に一度、休みの日に子供達と歩くようになりました。父さんチームと母さんチームの二手に分かれて配ります。子供はとても純粋です。何のためらいもなく（犬のいる家ではおびえながらも）、

楽しそうに、そして元氣な声で挨拶しながら配ります。帰る道中ではお互いの状況や成果を話しながら笑っている子供達を見てみると、「親の声があつたからこそ、子供達にも喜びの種まきをさせてやれることが出来る」と感謝しております。

こんな未熟な者ですが、今年も一年、私なりに親に喜んで頂けるよう、微力ながらつとめさせて頂きたいと思っております。



私はこの上級で作って下さるチラシの文言が大好きで、それを先ず自分の心に治めさせて頂こうと、そちらを楽しみにしている位で、まことにお恥かしい次第です。

今月は、「ひとを暖める言葉」という題のチラシですが、何年か前にも丁度この二月、「言葉一つ」というチラシを配らせて頂いたことがありました。それを小学校の校長先生が、卒業式の席上、卒業生に贈る言葉に取り入れて話され、出席していた私はいろいろな意味で感動したのを憶えています。その（ことば一つでけんかして、ことば一つで仲なおり……）という内容が私自身も大好きで、長らく台所の壁に貼って毎日読んでは自分に言い聞かせていました。

人と人との関係で、言葉程大切なものはありません。文字にすれば同じ一つの言葉であっても、出し方一つによって感じが大きく変わるし、また聞く方の性格や、立場や、その時の精神状態によっても、受け取り方が大きく変わってくるものです。

つい先日、一つの経験を見せて頂き、私の至らなさを親神様教祖に心からお詫び申し上げたことがありました。ある中年の女性の方なのですが、その方を労わるつもりで言った一言が、その方の心を傷つけてしまったのです。日参に近い状態でずっと参拝しておられたのに、しばらく時々にか姿を見せられない。年の始めだし、寒さも例年

言葉一つ

御野分教会長夫人 佐藤 喜代子

百万軒にをいがけも今年で四年目に入り、今では信者さん達も何の抵抗もなく、ためらいもせず、中には楽しんで自分の持場地区を廻って下さっており、大変ありがたいことと喜ばせて頂いております。私自身も、忙しい忙しいと言いつつも、何とか時間を作って、町内の公務も兼ねて月に二回か三回廻っているのですが、それはさておき、

になく厳しいからかな……なんて思っているながら、私自身も申しわけないことに訪ねることもしていなかったのです。そうした或る日参拝して来られ、私の言った一言がショックで、夜も眠れぬ程落ち込んで苦しんでおられたというのです。私

としてはまさに青天のへきれきで、早速お詫び申し上げた次第です。



を小難・小難を無難に通して頂いたの

教祖は、「声は肥やで。」と仰せ下さいました。また、教祖が榊井伊三郎先生にお聞かせ下さいたお話の中で、「言葉一つが肝心、吐く息引く息一つの加減で内々治まる。」と仰せ下さったと聞かせて頂きます。

この度の経験は親神様から私への今年最初のプレゼントです。これを機に更に心して、人を暖める言葉、人をつなぐ言葉、人を生かす言葉を使いよう、温くやさしく低い心で通らせて頂きたいと思っております。

還暦後継者の、某様宛手紙

久福分教会後継者 佐藤 憲美

前略、その後お変わりございませんか。私は、今おちばに帰らせて頂き、後期教会長検定講習会を受講させて頂いております。今夜は、特に底冷えしています、詰所内は、皆様の暖かいおもてな

しと、若く深刺とした修養科生・講習生の修学の熱気に包まれ、青春を取り戻した感覚で、寒さも吹き飛んでいます。講習会では、ご経験豊富な先生方の、心に響くお話に接し、御教の偉大さ奥深さを痛感すると共に、御本部の一貫し

後継者教育の素晴らしさに感動しています。この中であって、私の過去の所業を反省しますと、還暦迄の我儘を許し、大難

は、親神様の広く、やさしい御心と亡祖母や母、素直に協力してくれた妻の「徳」を頂いたものと悟らせて頂きました。皆様への感謝報恩は、人に「喜び」を施し、自分も喜び、共に楽しむ「陽気ぐらし」と悟らせて頂きました。

思えば、私の還暦迄の天理教忌避も、シャイな性格ゆえの世間並志向と教理の無理解に起因していると反省しています。その上、心遣い労力を惜み、見せかけの働きで高給を欲しがり、欠点をつく人を憎み、人より我身かわいく、顔を潰されたとて人を恨み、腹を立て、酒色は男の甲斐性と、無力を棚へ職権を乱用し、嘘は方便、追従は利便とばかり「八つのほこり」を積重ねて来ました。しかし、これを反面教師として「にほいがけ・おたすけ」に励み、人の「喜び我が喜び」にするのが、私に荷せられた役目と認識し、実行しようと考えています。帰福すれば、教会長の席が待っていますが、



未だお道の離島です。一人のようぼくとして動く所存です。85才の会長も、まだく、肩の荷は降せないでしょう。妻や子供、役員、信者の方々にも、ますますご苦労をかける事になるでしょうが、快諾頂けるものと確信しています。又私を見守り応援頂ける方々が、沢山いて下さり心強いばかりです。親会長様奥様、役員先生方、修養科・講習会の先生方や、数多くの同僚達で、何時でも叱咤激励頂きます。最後に当面の教会活動方針は、次の通りを思っています。

「つとめとたすけ」の再認識と実行
一、つとめ

かん

ろう台づとめの理につながる

大切なつとめと再認識し、

真剣に正確なつとめの実行とつとめ人数の確保

一、たすけ

継続的、飽くなき「にほいがけ」の実施と親神様のさづけの取り次ぎ者の認識し、一期一会の気持ちで「おたすけ」の取り次ぎ

とする。

この様な心定めを致しましたので、お見守りの上、時旬のご指導ご鞭撻をお願いいたします。神の思召しのまゝに……

平成十三年二月三日

某様

春季大祭祭文

この笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長
 上原理一慎んで申し上げます
 親神様には人間の陽氣ぐらしをするのを見て共に楽しみたいたの思召から
 紋型無いと人より道具を引き寄せ守護を教え八千八度の生まれ替わりを通
 して今日の上げますへとお育て下さいましたその親心とご苦労の程に心よ
 り御礼申し上げます加えて成人になり陽氣ぐらしに向かうひなごたを下さ
 祖を月礼の社とお定めになり陽氣ぐらしにお引き寄せ下さった事は誠に有難
 ばかりでなくこれの世界だすけの道におつき寄せ下さった温かい親心を勿
 体ない極みでございませす私共はこの道におつき寄せ下さった温かい親心を
 悟りご恩報じを思い念じて届かぬながらも精一杯つとめにして又にをい
 がけにおたすけにとたすけ一条の子供の成人を促したりまつてお許し戴いた
 分けつてもこの月には教祖が一人の子供の成人を促したりまつてお許し戴いた
 てろつくと地に踏み均しにいられた尊いお月につとめ奉仕者一同心一つに睦
 日の吉日におちびの理にならぬからお月につとめ奉仕者一同心一つに睦
 わせて明るく陽氣に勇んで座りつとめ奉仕者一同心一つに睦
 わせていただきます
 御前には数年ぶりの厳しい寒波を厭いませす寄り集い同じ思いに伏し拝み
 お歌に唱和する皆の真実の状をご覧下さいませす親神様にもお勇み下さいま
 すようお願ひ申し上げます
 さて本年頭にならぬ為にも実動をして欲しい「とのお言葉をお聞かせ下さ
 ましたので実動を合言葉に三年千日仕切つて歩んできた仕上げの年に相
 い実動の年にしたいとの思いから「一、おさづけの取り次ぎ」「二、実践項目
 らし講座と百万軒をいがい「一、一人のおぢばがえり」を実践項目に
 実動に邁進させて頂く覚悟でございませす又昨年の秋の大祭で真柱様から人
 材育成の重要性についてのお言葉がございませす信者子弟も何らかの形で実
 入れ教会長子弟布教所長子弟ふばく更には又創立百十周年に相応しい年
 よう丹精させて頂く所存でございませすおさづけは又創設百十周年に相
 なるよう昨年より増して初席者三百名おさづけは又創設百十周年に相
 百五十名教人登録者百名を年頭に心定めさせて頂きましたこの心定めが
 動に繋がり実動が人づくりの理作りになるよう心を一手に一つに結び合
 んでたすけ一条の上にお勤めさせて頂く所存でございませす
 何卒親神様には皆の親一筋心の真実をお受け取り下さいます
 上り自由の御守護を賜りましてよふばく家庭がたすけ下さいます
 願ひ申し上げます一年になりませすようお導きの程を一同と共に慎んでお

「陽氣ぐらし講座」開催集計

H12. 12. 15

ブロック	参加者数			開催会場		出向講師名		山内宣暁 6	
	男性	女性	計	未信者	教会・礼拝所	公共施設			
直轄1・2	462	800	1,262	803	14	20	京塚 貢 30	田村辰久 8	伊藤通友 4
福山	281	651	932	471	12	13	藤原晃雄 14	東 諒 7	富松幹禎 4
高屋	359	843	1,202	806	11	20	二宮勝巳 11	山田鎮郎 7	加藤芳樹 3
島根	203	429	632	234	13	8	宇恵義昭 10	伊藤正和 6	山本武生 2
久松	92	128	220	101	0	8	野村英輔 10	清水栄吉 6	その他 12
上下	95	207	302	143	6	4			
府中市	86	189	275	113	11	0			
合計	1,578	3,247	4,825	2,671	67	73	開催140会場の内、芸能人有の会場は77会場 (55%)。		
				55.4%		140			

ふたごや みいり

昨年十一月二十一日「大教会創立百周年決起の集い」が開催された。私は当日の記録写真を撮るよう仰せつかった。
 久しぶりにカメラをケースから取り出し、ファインダーを覗いてビックリ。目の前に霧のかかった様な風景が。何とレンズにカビ。きれいに拭き取り撮影となった。
 仕上がったプリントを見てまたビックリ。最近、急に進んだ老眼のせいか、はたまた手の震えのためか、ピンボケあり、シャッターチャンス遅れなどなど。到底人前に出せる様な物ではなかった。
 「昔取った杵柄」ということわざがある。以前に身につけた技能はいつになっても衰えないという意味だ。
 私も二十数年前、小さな地方新聞社の記者としてカメラを肩に、駆け回っていた。しかし、常に写す、という作業から遠のいた今、残念ながら当時の様には写せなく、ことわざ通りにはいかないのが現実だ。
 本年の大教会の実践項目の一つとして「おさづけの取次」をお打ち出し頂いた。おさづけは取り次いでこそ尊いおさづけの理である。昔戴いたおさづけ―にならない様、常に取り次がせて頂かねば、と思う日々だ。

宿 舎

男子は第38母屋、女子は第12母屋

- ・ 身上やいびき等により合宿がむずかしい場合は、笠岡詰所から通うこともできます。
- ・ 子供連れの方は笠岡詰所からの通いとなります。

服 装

ハッピーは自教会のものを着用してください。

- ・ 真柱様からお言葉を頂く際、男子はカッターシャツ・ネクタイを着用してください。女子はこれに準じます（スカート、スラックス、着物等考えられますが特に定めません）。

携行品

筆記具、宿泊用具、ネクタイ等、その他

受講御供

3,000円

- ・ 第1日目 午前7時30分より、笠岡詰所で徴収します。
- ・ 笠岡詰所に立ち寄らず、直接、宿舎受付へ行かれる方は、予め、事務局までご一報ください。

受講者

- ・ おちばへの往復の交通手段は、近隣の教会長で相談の上、考慮願います。
- ・ なお、下記のように大教会より上和便を運行します。乗車御供は1人6,000円（往復）で、旅行保険は掛けておりませんので、予めご了承ください。
- ・ 便乗をご希望の方は、早めに事務局までお申し込みください（先着7名）。

集合前日 午後 6時 大教会出発

午後10時頃 笠岡詰所着

第3日目 午後 1時 笠岡詰所発

午後 5時頃 大教会帰着

諸注意

- ・ 受講できない事情が生じた場合は、速やかに事務局までご連絡下さい。
- ・ **付き添い者について** 付き添い者は原則として、同時に受講する同じ直属の中の教会長とします。やむを得ずそれ以外の方が付き添う場合は、講話・ねりあい等の場には同席できません。
- ・ **託児について** 希望者のみ、生後91日目より小学校就学前までの子供の託児の世話取りをします。（託児御供：1人500円）
- ・ 詰所通い・託児・付き添い・透析・車椅子での受講を希望される方は、2ヶ月前の21日までに、事務局までお申し出てください。

事務局

- ・ 連絡・お申込み・お問い合わせ等は、笠岡大教会 事務局 岡崎真一（☎0865-66-1311）まで

教会長おやさと講習会 要項

主 旨

教会内容の更なる充実を目指し、教会長の役割を改めて確認するとともに、世界たすけの使命感を高めることを目的とする。

実施期間

立教164年4月より9月までの期間に19次にわたって開催。

- 各次2泊3日。
- 笠岡へは、下記の通り割り当てられています。

第3次	(4月13日～15日)	28名、
第8次	(5月16日～18日)	28名、
第13次	(7月1日～3日)	27名、
第16次	(8月28日～30日)	27名、
第19次	(9月14日～16日)	27名。
- 各受講次2ヶ月前に割り当て教会長に案内状を送付します。
- 急な身上等で割り当て内に受講できなかった場合は、願い出て頂いて、残る開催次の中で受講して頂きます。尚、最終の第19次を欠席した場合は今回の受講は不可能となります。

集 合

第1日目 午前8時頃 (朝食の準備はありません)

解 散

第3日目 昼 頃 (昼食の準備はありません)

※集合前日から笠岡詰所に宿泊する方は、必要に応じて、前日夕食・詰所宿泊・第1日目朝食・第3日目昼食等について、銘々で必ず笠岡詰所の方へお申し込みください。

対 象

教会長(含代務者)

- 8月までに新設があった場合は新設教会長は受講対象者となる。
- 担任変更によりすでに前任者が受講している場合でも、新任教会長も願い出により受講できる。

内 容

◎ぢばの理を世界へ

第1講 「親神様の御守護」

第2講 「教祖存命の理」

◎教会らしい教会を目指して

少人数によるねりあい

ビデオ

その他

会 場

おやさとやかた及び第3食堂

教会長おやさと講習会割当表 (改訂版)

第3次 = 4月13日～15日、**第8次** = 5月16日～18日、
第13次 = 7月1日～3日、**第16次** = 8月28日～30日、
第19次 = 9月14日～16日。

名称	次	名称	次	名称	次	名称	次	名称	次	名称	次	名称	次	名称	次
福山	8	照陽	8	廣町	16	福備	16	真金	13	米美	16	久福	19	國須	8
高屋	13	輝美濃	3	福廣	16	福輝	13	仲條	13	伯仙	16	久津	19	上吉野	8
神邊	13	新山邑	8	福勇	8			稻倉	13	照雲	3	呉福	19	上備	8
島根	19	些部	3	福芦	8	坪生	13	稻瀬	16	輝伯	16				
久松	19	明石市	3	福満	13	八尋	13	稻富士	16	松都	16	鶴南	19	河佐	3
鶴山	19	上下	8	福岩	16	深安	13	稻讚	16	樺島	16	鶴真	19	上川邊	3
弥高山	19	府中市	3	西村	13	笠尋	16	門司港	16	亀田山	19	川島郷	8	甲井	3
陽備	8	東城	3	福年	16	芦品	13	大恵山	13	出雲川津	19	鴨方	8	上父	3
摩耶	19	服部	19	引野	13	安那	*	東水島	16	天場山	19	作備	13	阿木行	3
金浦	8	島中	3	福昭	13	芦田川	16	高児島	16	簸ノ川	19	輝華	16	宇津戸	3
興明	3	驛家	3	福春	13	三郡	*			多古浦	16	錦ヶ原	3	河面	3
ひろさと	8	油木	3	福中	13	芦常	*	出雲	19	瑞北	19			府鮮	8
陶山	*	葦陽	3	福富士	13	芦辺	16	瑞雲	19	雲東	19	行滕	8	府庄	8
芳井	3	湯田原	8	福東	13	芦加茂	16	海潮川	19			眞府	8	府世原	8
呉照	8	備中	3	東福山	8	恵陽	13	錦洋	16	神村	19	吉舎	8		
海松ヶ岡	13	神昭	3	福南	13	陽實	16	米府	16	呉中	19	清嶽	8	神驛	3
東悠	8	美之郷	3	福順	13	御野	13	弓ヶ濱	16	大江橋	19	上小島	8	神免	3
吸江	3	錦備	3	福節	13	香地華	13	西伯	16	品治	19	木津和	8	葦沼	3

- ・各次、本年開催。第1日目午前9時頃開講、第3日目お昼頃解散の予定。
- ・表中、「*」と書かれた、安那・三郡・芦常・陶山は、秋季霊祭などの都合で、割り当てられた受講次を受講できないため、第13次または第16次の受講を希望しておられます。第13次または第16次に割り当てられた方で、第8次になっても構わない方=1名、第19次に変わっても構わない方=3名を募集いたしますので、都合のつく方は、事務局までご連絡ください。
- ・「割り当てられた受講次の第1日目の午前8時頃までにおぢばに到着できない」など、不都合がある場合は、事情が発生した時点で、速やかに事務局までご連絡ください。
- ・なお、各受講次は、ギリギリの選択肢の中で割り当てさせていただきましたので、中には、祭典直後はもとより、祭典前日にお願いしてある教会もあります。その点を踏まえ、余程の理由以外では、変更を受けかねますが、必ず受講していただくことを第一義に考えておりますので、欠席する可能性のある方は、必ず事務局にご相談くださいますようお願い申し上げます。